

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	Smile please MIZUHO		公表日	令和7年5月1日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・狭いと感じることもあり、2部屋に分かれて遊ぶなど工夫している ・当初は狭いかと思ったが手の届く範囲で活動ができるため、転倒などが起きたばあいは、事故を防ぐ事ができる ・祝日長期休みにスペースがほしい ・荷物用のコンテナ購入をしてもらえたので利用する ・重心医ケア児と動ける医ケア児を調整している 	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・その時々利用人数を配置している ・利用者さんの状況にかかわらず、シフトでは1対1の配置をしている ・管理者と確認しています 	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	2	<ul style="list-style-type: none"> ・重心・医ケア児の施設の方はスロープがある ・元の建物の構造上、完全バリアフリーになっている ・子供サイズの手洗いがほしい ・施設前玄関に自動の屋根を付けました ・玩具の位置、トイレ手洗い場などはわかりやすくになっている 	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・消毒等も行っている ・空気清浄機や加湿器等も使用している ・ヒーターの前では柵を付けております 	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・個別で過ごせる部屋があり、必要に応じて使用している ・バリアフリーの中でできるだけパーテーションなどを導入して対応しています ・環境になじめない子は別室にて過ごし、徐々になじめるようにしている ・音に敏感な子に対して必要な時には別室にて対応しています 	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・目標変更の際にその都度振り返っています 	より効果的な方法について検討
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・内容を確認し、改善に努めるようにしております 	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	1	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り、余裕をもって業務にあたる事ができているのかヒアリングは行い、必要に応じて対応しています ・職員間のミーティングがもう少し欲しい ・意見が出た時には共有し、すぐに話し合いを行っている 	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	5	<ul style="list-style-type: none"> ・コンサルの方に偵察に来てもらっている 	周知できていなかったもので、伝えていきたい
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修や事業所内研修を行っております 	さらなる向上を目指しさらに研修を行う機会を検討
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに公表し、周知していただけるように配布も行った 	評価表や支援プログラム等、HPに載せているが周知してもらえるように声を掛ける
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・児発管と専門的な視点での目標を考えています 	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・多職種で連携を図り、話し合っています 	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	12		<ul style="list-style-type: none"> ・適宜スタッフ間で共有しています 	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	1	アセスメントツールや使い方について勉強したい	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	12		サービス支援会議を行い、支援計画書を設定している	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	12		保育士さんを中心にスタッフも交え案を出し合っています	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	11	1	保育士だけでなく機能訓練士の考えるサーキットやデジタルハを行っている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12		看護職員、機能訓練士といった専門職の職員を含めて作成支援を行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	12		・ホワイトボードに一日の流れ、役割分担を記載し、一目瞭然にしてある ・出勤時間が違っている為、揃っては難しいが、ホワイトボードや伝達LINEで分担や連絡事項は伝えている	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12		変更事項や改善点をラインに送り共有し、職員が把握できるようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	12		支援の記録をし、個別に分け、振り返れるようにしている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	12		6か月間の考察（モニタリング）を保護者の方に聞いてもらい、次回の計画書をどうしていくか見直しを行っている	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12		退院カンファレンスに看護師が出席し利用者の情報を把握している	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	12		園や学校での様子や過ごし方など共有してもらい、連携をとっている	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	12		・園や学校と情報共有し、支援の仕方や使うものの統一を図っている ・まだ、人数は少ないが移行に向けて、事業所の様子を見てもらいながら配慮する点などお伝えはできている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	5	就学移行がまだない	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	12		・瑞穂市の放デイ等の連絡会に参加している	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	5	・併用しているお子さんが沢山通っている ・施設職員の子どもも参加できるようなイベントを実施し、交流する機会を作っている	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12				

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	12		ペアレントトレーニングを自事業所で開催した	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	12			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	12			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	12			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12			・イベントやペアレントトレーニングの声掛けしています ・保護者も参加してもらいイベントを開催し、保護者同士の交流する機会を作っている
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12			保護者とLINEで頻りに連絡を取り合い、迅速に対応している
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	12			Instagramで活動概要や行事、連絡体制の情報を発信している
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12			玩具の写真を見せて、どれで遊びたいか指をさし、意思表示してもらっている
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	11	1		・イベントの時に声掛けしています ・行事に招待するスペースが難しくなってきた
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1		・マニュアルに沿った訓練を月に1回実施している
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	12			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	12			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	12			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	12			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	12			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	11	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	11	1		虐待防止の研修を行っている
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	11	1			